

令和2年度

光が丘さくら幼稚園経営計画

練馬区立光が丘さくら幼稚園
園長 檀原 雅恵

今年度の目標

『安全・安心・安定 みんなが笑顔になれる幼稚園を目指す』

開園30周年を終え、園長含む新しいメンバーが加わり、会計年度任用職員としてサポートスタッフである介助員・事務員・用務も勤務システムが替わり勤務が持続できるようになった。『チームさくら』の更なる団結力を期待し、良き伝統を土台にしながら、地域と共に幼稚園の教育活動を推進し、新たな光が丘さくら幼稚園の更なる発展を目指す一步の一年としたい。

今年度年長35名年少31名計66名で4月よりスタートする予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として国が緊急事態宣言を発令し、始業式前に休園となった。異例な2カ月自宅待機から始まる令和2年度、「子供たちを真ん中に！子供たちの笑顔のために」教職員が、それぞれの個性を生かし『チームさくら』として安全・安心・安定の温かい教育活動に取り組む。また、家庭と地域に支えていただいていることに感謝し、共に連携し、一人一人の幼児が、自己肯定感をもち心豊かにたくましく成長していく園を目指す。

1 目指す幼稚園像

子供たちの笑顔と学びの芽があふれる幼稚園

- 教育目標
- ・自分で考えて行動する子ども（きらきら）
 - ・思いやりのある子ども（あったか）
 - ・明るく元気な子ども（げんきいっぱい）

教育目標を受けて目指す幼稚園を以下のようにする。

幼児、保護者、地域とつながり共に育ち合う中で、幼児の心と体の土台作りの教育活動をおこなう。

- 幼児の心を揺さぶる直接体験、自然体験を保障するための環境を創意工夫する幼稚園
- 幼児が毎日喜んで登園し元気にのびのび過ごし、大好きなひと、もの、こととのかかわりが深まる幼稚園
- 一人一人の育ちのペースを大切にし、学びのプロセスを読み取り適切な援助を行う教師がいる幼稚園
- “幼児の笑顔と育ち”を追求し、互いを尊重し合い主体的にチームで教育活動に向かう教職員がいる幼稚園
- 保護者にとって子育ての悩みや喜びを共有できる教師や子育て仲間がいてほっとする幼稚園
- 未就園児親子にとって「行ってみたい」「行くと楽しい」「入園したい」と思える幼稚園
- 保護者、地域が幼稚園に対し安全、安心、安定の3つの安を実感する幼稚園
- 地域、保護者と関係性を築き、共に育てる幼稚園

2 令和2年度の達成目標と具体的方策

(1) 豊かに感じ表現する幼児を育む

- ・ **自分も大事・友達も大事・命が大事**を意識できる豊かな活動を経験させることにより、一人一人の特性に応じたきめ細やかな**指導体制の構築**(週案・学年会・日々の記録)
- ・ 幼児が毎日喜んで登園し一人一人のペースで、元気にのびのび過ごせる**安心・安全・安定した生活の流れ**(週案・学年会・日々の記録)
- ・ ひと、もの、ことの三つの“ま”(時間・空間・仲間)にじっくり向き合い、幼児が夢中になって遊ぶことで、自分で考えて行動する楽しさを感じ自己肯定感へつなげる**保育実践における援助・指導の工夫**(週案・学年会・日々の記録・園内研修会)
- ・ 個と集団の学びのプロセス(主体的か、対話的で深い学びか)を読み取りながら行う**幼児理解**(週案・学年会・日々の記録・園内研修会)
- ・ 幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿(10の姿)を意識した**指導計画の作成と保育の展開**(週案・学年会・日々の記録・園内研修会・幼稚園教育要領参考)
- ・ 身近な人と心を通わせたり話に耳を傾けたりし、言葉への関心を高め、自分の考えを相手に伝えたり聞いたりして、**言葉による伝えあいの喜びを感じる指導・援助の工夫**(週案・学年会・日々の記録)
- ・ 来年のオリンピック・パラリンピックに向けての活動の中で競技、国際理解、障害者理解、日本の伝統文化への関心が高まる**環境の工夫**

(2) 主体的、協働的に教育活動に取り組む喜びを感じる教職員集団「チームさくら」

- ・ 報告・連絡・相談・確認の徹底で、正確な**情報共有、伝達、タイミング**を逃さぬ**対応**で築くチームの信頼関係
- ・ “幼児の笑顔と育ち”を共通の目的とし、互いに支え合い高め合い、**悩みや課題を共有し相談でき協働的な関係性**の構築
- ・ 持ち味を活かし合い主体的に組織の一員として役割を意識し遂行すると共に、日々の保育で生かす「**一教師一専門家**」
- ・ 教職員が、自らの資質向上を図り、PDCAサイクルによる**全体の保育の質の向上**を目指す
- ・ ヒヤリハットの意識をもち危機管理マニュアル、地震対策の手引き、不審者対応の手引き学校情報セキュリティ対策ハンドブックなどを活用して**一人一人の危機管理の意識の向上**

(3) 幼児と子育て仲間と共に育つ喜びを感じる“あったか笑顔”の保護者・地域

○保護者との共育をつなげるために

- ・ 信頼関係を築き、幼稚園と家庭と**共に育てる意識**の醸成

- ・ホットな情報を子供たちの育ちを伝えるかわら版等の掲示物、クラス便り等の配布物、学級懇談会でのもち方の工夫で**可視化できる伝え方の構築**
 - ・保護者会、保育参加、参観、さくらトーク・こあらトーク・バースデートーク（様々な方法の園長とのグループトーク）などを通し、**園の方針や幼児の育ちを知らせ理解と協力を得る**
 - ・サークル活動や、保護者向けの講演会、ボランティア活動、保護者会などを通して**保護者同士をつなげ、共に育てる関係性の向上の支援**
- 地域とつながるために
- ・地域未就園児親子への“集いの場”としての空き教室の施設開放、「みんなともだちの日」の開催、等による**子育て支援**
 - ・学校支援コーディネーター・学級連絡員の活用、学校地域連携事業の推進で**地域の人材と繋がり教育力を向上**
 - ・近隣の幼保小の連携の充実を図ることで円滑な接続を目指す。また、小・中・高校・高齢者施設の交流連携により**公立幼稚園の保育を積極的に発信し**理解してもらえるようにする。

4、いじめ体罰への組織的な対応

集団生活のルールを分かるように伝え内面を揺さぶり自分から行動する幼児を育て、道徳性の芽生えを培う指導の充実を図る。

- ① 園の生活を楽しみ自分の力で行動できるきめ細かな指導
- ② 人への信頼感をもつとともに情緒の安定を図る
- ③ 規則正しい生活習慣を身につけ健康な体で心地よく生活を援助
- ④ ルールや約束の意味を理解し自分の気持ちを調整しようとする力を育てる
- ⑤ 友達の話を聞いたり、思ったこと感じたことを話したりすることを、楽しめる援助・指導
- ⑥ 困っている友達や自分と違う考えの友達を受け止め思いやりをもって接する指導
- ⑦ 教師が幼児のモデルになることを意識した指導
- ⑧ 人権の尊重の理念である自分の大切さと共に他の人の大切さを認める指導
- ⑨ 多くの目で見ると、情報の共有。一人で悩まず管理職とともに教職員で連携し早期解決を図る

5 評価

教員による幼児の変容における自己評価

保護者による評価

学校関係者評価委員会（学校評議員会）

評価の結果公表